

## 世にも不思議・横浜市大「入試ミス誤報」事件(2002年9月1日)

横浜市立大学商学部教授、元入試委員長 矢吹 晋

遺憾ながら世に入試ミスは、いくつもある。だが、入試ミスの原因を取り違えた誤報事件は、滅多にあるものではない。『神奈川新聞』(2002年8月31日付)は、横浜市大「**採点ミスで23人処分**」という記事を掲げた。ところが、23人の被処分者のなかに「採点ミス者」は含まれていない。なぜか。記事全文を読めば分かるように、これは「採点ミス」ではなく、「得点集計のプログラミングのミス」が原因であるからだ。しかし、見出ししか読まない読者には「採点ミス」が印象づけられる。見出しのほかに、記事のなかに2回も「採点ミス」が繰り返されているからである。『朝日新聞』(神奈川版、2002年8月31日付)は、「**電算処理での入力ミス**」に原因があると報じた。ところが、23人の被処分者のなかに「入力ミス者」、すなわち入力担当者は含まれていない。なぜか。解答用紙から切り取った「短冊」をコンピュータに入力する際の「入力ミス」ではないからだ。

入試ミスはあってはならないものだ。再発を防ぐためには、原因を徹底的に究明する必要があることはいうまでもない。横浜市大の入試ミス報道が原因を取り違えているのはなぜであろうか。『朝日新聞』の伝える「調査委員会」の報告書がずさんなため、これを読んで、真相がかえってわからなくなったのではないか。ここで記者たちが誤解し、誤報している事実はそれを物語るのではないか。これでは「再発防止策」にはならない。それを痛感して私は「調査報告書」のどこがどのようにおかしいのかを分析した。ご興味のある方にぜひお読みいただきたい。

[『入試ミス調査報告書』を批判する\(pdf360kb\)](#)

[左は『神奈川新聞』2002年8月31日付。右は『朝日新聞(神奈川版)』、2002年8月31日付]

8.31  
**総合判定ミス 23人を処分**  
 横浜国立大  
 商学部入試

横浜国立大学商学部の  
 01年度前期入学試験で、  
 判定ミスで合格すべき  
 受験生2人が不合格にな  
 った問題で、同大は30  
 日、当時の商学部長ら23  
 人を減給などの処分にし  
 たと発表した。

当時の千賀重義商学部  
 長と、佐野寿夫教務部事  
 務室事務長が1カ月間減  
 給10分の1、当時の教養  
 部長と商学部事務室事務  
 長、同教務部長と教養部  
 事務室教務係長が戒告、  
 10人が文書訓戒だった。  
 7人が学内処分だった。  
 事件後、同大は調査委  
 員会を設置。同委は電算  
 処理での入力ミスや、点  
 検が不徹底だったことな  
 どが原因にあるとし、点  
 検作業マニュアルやチェ  
 ックリストを作るなどの  
 再発防止策を示した。不  
 合格になった2人は02年  
 4月に入学した。

神奈川新聞  
 2002  
 8.31  
**採点ミスで23人処分**  
 教職員に減給など

横浜市大商学部が二〇〇  
 一年度入試で、採点ミスの  
 ため合格していたはずの受  
 験生二人を不合格とした問  
 題で、同大学は三十日、教  
 職員二十三人に対し減給な  
 ど処分を行った。二人は  
 本年度、同学部に入學して  
 おり、在学中の金銭負担の弁  
 済などについて話し合いが  
 進んでいるという。

採点ミスは得点集計のプ  
 ログラミングのミスが原  
 因。英語以外の外国語を選  
 択した受験生四人の得点に  
 傾斜配点(二・五倍換算)  
 が行われなかったため、二  
 人を不合格と判定してい

た。  
 処分内要(訓書吉は当時)  
 は千賀重義商学部長と佐野  
 寿夫教養部事務室事務長  
 (入試得点集計処理責任者)  
 が一カ月の減給(十分の  
 一)。教務部長ら四人が戒  
 告、商学部入試委員会議委員  
 長ら十人が文書訓戒、同副  
 委員長ら七人が学内処分  
 (学長訓戒)となった。  
 (報道部・有吉 敏)

[『神奈川新聞』報道部からの9月3日付 fax]

矢吹 晋機  
 前略  
 8月31日付朝刊の横浜市大処分に関する記事についてのご質問にお答え  
 します。本紙は以下の理由で上記の記事、見出しとしました。

「得点集計のプログラミングミス」は、総合判定を行うための資料作成  
 上のミスであります。受験生本人、またそのご家族(一般読者)にとっ  
 てみれば、総合を判定する入試の採点に関する作業ミスに包含されると  
 の認識から、「採点ミス」と表記しました。

神奈川新聞報道部

[神奈川新聞報道部への抗議文 9月3日]

神奈川新聞報道部御中  
 九月三日付 fax によるご回答をありがとうございました。内容を一読して、驚きを禁じ得ません。

真実の報道を追求すべきジャーナリズムに携わる方の回答とは、到底考えられないものです。

大学入試において、解答用紙の採点に始まり、得点集計、合否判定を経て発表に至る過程には、いくつもの段階があります。それらのどの段階においても、ミスが発生が許されないこと、これは改めて申し上げる必要もありません。合否判定においてミスが生じた場合には、「どの段階で、なぜ生じたのか」、その原因を徹底的に解明して初めて類似のミスの再発を防ぐことができます。「採点ミス」とは、「採点者による、採点上のミスを指す」ことは日本語の常識であります。今回の合否判定ミスは、採点者の手元から離れた段階で生じたものであり、採点者として責任を負うことはできないものです。今回の処分において、採点者が処分対象から外されている事実を直視すべきであります。ご回答によれば、貴紙は「合否を判定する入試の採点に関する作業ミスに包含される」と認識して「採点ミス」と表記した由であります。しかしながら、「採点ミス」の四文字を、見出しを含めて三回も繰り返したことによって、「受験生本人、またそのご家族(一般読者)」に「採点者のミス」を印象づけることとなります。これはどのような結果をもたらすでしょうか。本学入試においては、当然ながら出題・採点者名は匿名にされています。しかしながら横浜市立大学商学部の場合、専任教員で中国語を担当している者が単数であることは、大学が公表している資料から容易に分かります。つまり建前としては、入試関係者は匿名とされているにもかかわらず、実際には担当者を特定できる場合もありうるのです。それゆえに無視できない問題になります。現に入試ミスの報道以後、私の研究室宛てに、「抗議」(と解釈される)電話を受けた事実があります。つまり採点担当者は、実際に被害を受けているわけです。「採点ミス」の用語法について、百歩譲って貴紙の主張を認めたとして、採点者の基本的人権、名誉を貴紙はどのように認識しておられるのでしょうか。私が誤報の訂正と謝罪を要求するのは、現に被害を受けているからであります。「採点ミス」という表記については、貴紙の期待通りに広義の含意で受け取る読者も中にはいるものと思われませんが、相当数の読者が「採点者のミス」と誤解した事実がある以上、訂正記事を載せるべきであります。特に入試に強い関心を持つ読者ほど簡単に読み流さず「採点ミス」と印象深く受け止めやすい事実に留意すべきであります。貴紙の用語法を用いれば、「入試ミス」はすべて「採点ミス」になります。そのような曖昧な表現は、「受験生本人、またそのご家族(一般読者)」に入試ミスの真実を報道することには到底なりえないことは明らかであります。ちなみに、同日付の『朝日新聞』には「採点ミス」の四文字が見当たらないことにご注意いただきたいと思えます。

以上の理由により、誤報を訂正すること、採点者の名誉を著しく傷つけたことに対する謝罪を改めて要求します。2002年9月3日、横浜市立大学商学部教授 矢吹 晋

**[追記2002年9月5日]**

**横浜市大入試ミスは、前掲の『神奈川』『朝日』のほか、『毎日』『東京』も報じていました。**

(1)『毎日新聞』山本浩資記者は(8月31日付26面)にこう書いています。「英語以外の外国語を選択した場合、得点を2.5倍にする傾斜採点方式を採用したが、4人の得点についてこの処理を忘れた」と。これを読むと、**英語は2.5倍されず、英語選択者だけが損するみたいな書き方ですね。むろん、それはないのです。英語は最初から「素点250点満点」なのです。だから、「英語以外の外国語」も英語と同じく「素点250点満点」を勝手にいじることをしなければ、入試ミスを防ぐことができたのです。**

(2)『東京新聞(横浜版)』(8月31日付)は、こう書いています。「外国語試験で中国語など3カ国語を選んだ受験生の得点は2.5倍にする仕組みだったが、職員がコンピューターに傾斜配点の設定をせず二人が不合格となった」と。やはり**「中国語など3カ国語」を選んだほうが得みたいですね。**いえ、英語は素点250点満点だから2.5倍する必要はないだけの話。つまり英語以外の外国語も「素点250点満点」のままにしておけば、2.5倍する必要はなく、ミスはありえなかったのです。

**[私の感想]**

**四つの新聞記事は、いずれも「欠陥報道」です。真実を正確に報道したものは皆無です。ジャーナリズムは、なぜこのように不正確なことを書くのでしょうか。この大学の広報体制は、なぜこのよ**

うなミスリーディングな報道を許しているのでしょうか。私は勤続四半世紀の老兵ですが、こんな異常な出来事は初めてです。大学をむしばむ病いは重い、といわざるをえません。